

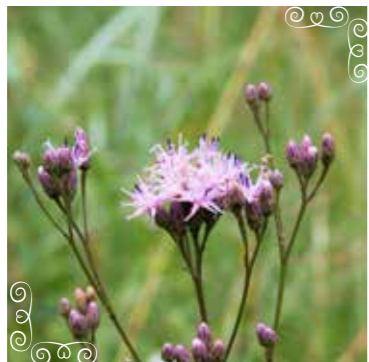
箱根湿生花園の

花だより

2018年9月15日 発行

ミヤコアザミ 「都薊」(キク科)

本州(福島県以南)四国(高知県)～九州の山地の草原に生える多年草。名前の由来は、アザミに似た花が小さく可愛らしいため、都人にたとえたことから。



仙石原すすき草原のススキの穂も出揃うようになり、秋の風情が感じられるようになってきました。園内では、人気の高いアケボノソウやキレンゲショウマなどが見頃を迎えています。徐々に深まる秋を箱根湿生花園でぜひお楽しみください。また、9/24(月)の秋分の日には、箱根湿生花園第一駐車場を会場に「仙石原すすき祭り2018」も開催されます！



『仙石原すすき祭り2018』のお知らせ

箱根湿生花園 第一駐車場を会場に、仙石原すすき祭りが開催されます。
・旅館やホテルのワンコイングルメ ・芸者BAR ・ライブステージ
・箱根湿生花園のライトアップ ・花火1000発
などイベント盛りだくさん！皆様お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。
日時：9/24(月・祝) 15:00～20:00 場所：箱根湿生花園 第一駐車場

Pick Up アケボノソウ 「曙草」リンドウ科

アケボノソウは北海道～九州の山地の水辺に生える越年草です。茎頂で枝を分け、9～10月頃に清楚な白花を咲かせます。花をよく見ると裂片の端に黒紫色の斑点があるのが分かります。和名の由来は、この斑点を夜明けの空に見立てたことから付けられました。また、黄緑色の2点は「蜜腺溝」と呼ばれる蜜を分泌する場所で、アリなどの昆虫がよくきています。この特徴は、アケボノソウの学名(Swertia bimaculata)にも表されており、種小名(種形容語)は「2つの斑点」という意味です。

箱根湿生花園では園内各所で観察することができますが、木道の近くで多くの個体を観察できる植生復元区がおすすめです。小さな花をのぞきこんで、広大な夜明けの空に思いをはせてみてはいかがでしょうか？



サクラタデ 「桜蓼」(タデ科)

本州～沖縄の水辺や湿地に生える多年草。地下茎を横にのばしてふえる。名前の由来は花の色がサクラに似ていることから。



File 11 コアオハナムグリ 甲虫目 コガネムシ科

今回はこの時期アザミなどの花でよく見かけるコアオハナムグリを紹介いたします。ハナムグリは花粉や花の蜜、樹液を主食とする甲虫です。花の中に頭をもぐり込ませて食べている様子からハナムグリ(花潜り)と名付けられました。コアオハナムグリは体長10～14mm程度とハナムグリの中でも小型の種類で、他種とは細かい毛が背中全体に生えていることで見分けることができます。花にもぐり身体中に花粉を付けて移動するため、花の受粉を手伝う重要な昆虫のひとつですが、食べ方が強引なため、食事をした花はボロボロになってしまいます。園内にも多く生息していますので、食事の様子や食痕を観察してみてください。



Botanical Gallery



マツムシソウ

北海道～九州の山地の草原に生える越年草。秋の高原を彩る花。英名は特異な実の形からピンクッション(針さし)。



ツリフネソウ

北海道～九州の山野の湿地に生える1年草。名前の由来は細い花柄の先につり下がって咲く花の姿を、釣舟にたとえたことから。



キレンゲショウマ

本州(紀伊半島)～九州の深山の林内にまれに生える多年草。根元の根茎は木質になり頑丈。



シオン

本州(中国地方)～九州の日当たりの良い草原に生える多年草。草丈は人の目の高さくらいになる。



タカクマヒキオコシ

本州(関東地方以西の太平洋側)～九州の山地に生える多年草。名前の由来は産地の鹿児島県高隈山から。



アサマフウロ

本州(中部地方)の湿った草地に生える多年草。名前の由来は浅間高原周辺に多いことから。



タムラソウ「田村草」(キク科)

本州～九州の山地の草原などに生える多年草。名前の由来は不明だが、玉のようなつぼみがたくさん群がって咲くという意味の「玉群草」という説がある。

ご利用案内

通常営業 9:00～17:00(最終入園16:30)
大人(中学生以上)700円 小人(小学生)400円

アクセス

小田原駅または、箱根湯本駅より箱根登山バス(湖尻・桃源台行)“仙石案内所前”下車、徒歩8分。強羅駅より箱根登山バス(湿生花園行)終点下車。東名高速道路・御殿場ICより、車で20分。

Hakone Botanical Garden of Wetlands

はこね湿生花園

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 817

<http://hakonekanko.com/>